

令和8年6月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	8,113	12,066	6,125	5,941	15	20
2 千 石	4,839	7,562	3,808	3,754	0	13
3 内 山	5,893	8,000	4,213	3,787	35	38
4 大 和	3,771	7,022	3,524	3,498	4	1
5 上 野	7,926	15,733	7,688	8,045	1	△ 12
6 高 見	8,442	14,333	6,759	7,574	27	52
7 春 岡	8,577	12,588	6,632	5,956	51	52
8 田 代	12,296	22,672	10,813	11,859	1	△ 11
9 東 山	11,055	19,496	9,416	10,080	△ 10	△ 11
10 見 付	4,822	8,813	4,411	4,402	8	17
11 星 ケ 丘	3,822	7,063	3,171	3,892	6	12
12 自由ケ丘	3,617	6,982	3,188	3,794	0	6
13 富士見台	6,785	15,008	6,912	8,096	△ 6	△ 18
14 宮 根	4,023	8,138	3,737	4,401	△ 3	△ 12
15 千代田橋	3,838	8,157	3,799	4,358	4	5
千 種 区 計	97,819	173,633	84,196	89,437	133	152
R7. 6. 1	90,887	165,470	80,227	85,243	131	70
対 前 年 比	6,932	8,163	3,969	4,194	2	82
名 古 屋 市	1,196,459	2,352,150	1,154,664	1,197,486	1,274	852
愛 知 県 (R8. 5. 1)	3,442,667	7,446,954	3,709,722	3,737,232	11,746	6,974

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	82	115	△ 33	1,026	841	185

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,633 (令和8年6月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注1) 本市の世帯数と人口は、令和7年国勢調査結果の本市独自集計速報値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものです。

注2) 世帯数は、令和7年10月1日から算出方法の一部を変更しています。

千種区の年齢3区分別人口の概況

今回は千種区の年齢ごとの人口構成割合と、割合から導き出される年齢構成指数について見ていきます。

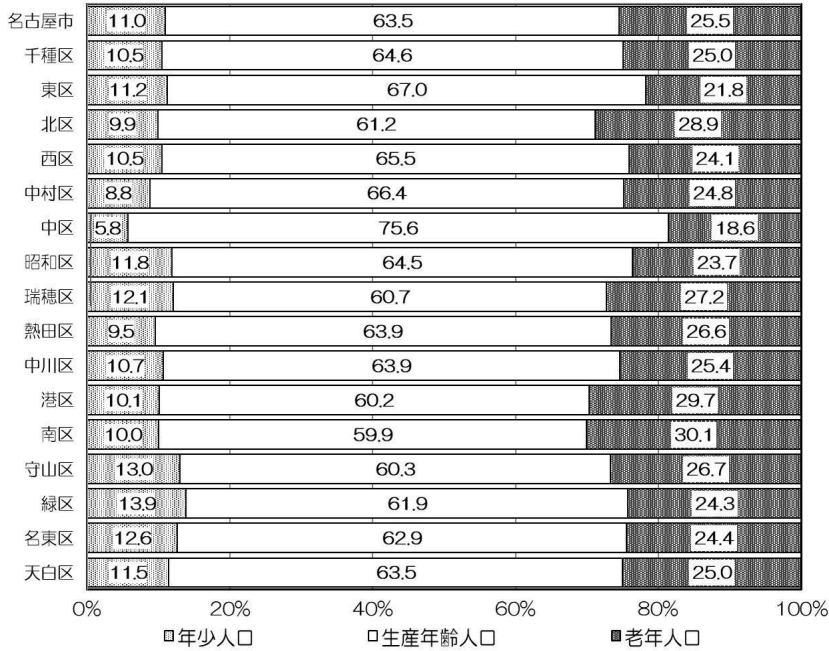


図1: 区別年齢3区分別人口比率 (令和7年10月1日現在)
(出典: 名古屋統計年鑑以下同じ)

まず、千種区の年少人口(15歳未満)、生産年齢人口(15~64歳)および老年人口(65歳以上)の比率について見てみます(図1)。

名古屋市全体および各区の令和7年10月1日現在の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が13.9%と最も高く、千種区は10.5%で16区中10位です。

生産年齢人口比率は中区が75.6%と最も高く、千種区は64.6%で16区中5位です。

老年人口比率は南区が30.1%と最も高く、千種区は25.0%で16区中9位です。

千種区の3区分別人口比率は名古屋市の比率とほぼ同じとなっています。

次に、千種区の年齢構成指数の推移を見てみます(図2)。年少人口指数および老年人口指数は、生産年齢人口100人が年少者または高齢者を何人支えるかを示すものです。また従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の令和7年の年少人口指数は16.2、老年人口指数は38.7で、16区中の高い方からそれぞれ11位となっています。また、千種区の令和7年の従属人口指数は名古屋市全体(57.4)及び令和6年の千種区従属人口指数(55.4)を下回り54.9です。これは16区中高い方から12位(令和6年:12位)となっています。

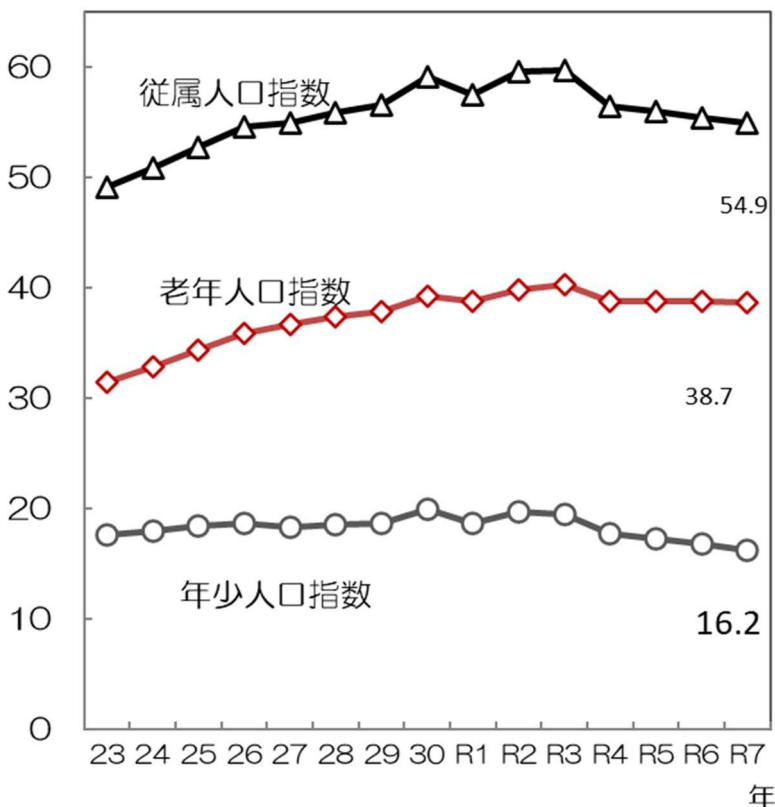


図2: 千種区年齢構成指数推移 (令和7年10月1日現在)